



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月5日

上場会社名 武田薬品工業株式会社 上場取引所 東京・名古屋各第一部・福岡・札幌
 コード番号 4502 URL <http://www.takeda.co.jp>
 代表者 代表取締役社長 長谷川 閑史
 問合せ先責任者 コーポレート・コミュニケーション部長 クリストファー ホフマン TEL (03)3278-2037
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 :有
 四半期決算説明会開催の有無 :有

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,286,875	8.2	169,357	12.4	156,935	3.7	110,998	△20.1
25年3月期第3四半期	1,189,109	5.5	150,672	△43.1	151,300	△42.9	138,912	△13.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 371,504百万円(82.8%) 25年3月期第3四半期 203,255百万円(一%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	140.60	140.45
25年3月期第3四半期	175.96	175.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	4,425,786	2,453,243	53.8	3,016.64
25年3月期	3,955,599	2,223,359	54.6	2,734.79

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 2,381,547百万円 25年3月期 2,159,006百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
26年3月期	—	90.00	—		
26年3月期(予想)				90.00	180.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 :無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,690,000	8.5	150,000	22.4	135,000	19.3	100,000	△23.8	126.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 :有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 13「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	789,680,595株	25年3月期	789,666,095株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	211,540株	25年3月期	205,831株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	789,463,563株	25年3月期3Q	789,431,149株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点においては、レビュー手続は一部終了していません。なお、レビュー手続を終了後、2月14日に四半期報告書を提出する予定です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。事業環境等の変化により、当社業績に重大な影響が生じると判断した場合には、速やかにご報告いたします。
- 業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料12ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。
- 当社は、平成26年3月期の期末決算から国際財務報告基準(以下、IFRS)を任意適用することを決定しました。日本基準とIFRSとの主要な差異を織り込んで計算したIFRSの当四半期の概算値および詳細については、四半期決算補足説明資料「2013年度第3四半期連結業績の概要」の23、37および38ページをご参照下さい。
- 本日2/5(水)開催の決算説明カンファレンスコールにおける資料、説明内容および主な質疑応答については、速やかに当社のホームページに掲載致します。
(当社ホームページ)
<http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	12
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	12
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	13
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	13
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	13
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	13
3. 四半期連結財務諸表.....	14
(1) 四半期連結貸借対照表.....	14
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	16
四半期連結損益計算書.....	16
四半期連結包括利益計算書.....	17
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	18
（継続企業の前提に関する注記）.....	18
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）.....	18
（セグメント情報等）.....	18
（販売実績（外部顧客に対する売上高））.....	19
4. 補足情報.....	20
(1) 連結医療用医薬品売上高.....	20
(2) 医療用医薬品 グローバル主要品目売上高.....	20
(3) 医療用医薬品 海外主要品目売上高（地域別）.....	21
(4) 医療用医薬品 国内主要品目売上高.....	21
(5) 一般用医薬品 主要品目売上高.....	21
(6) 開発の状況.....	22

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①はじめに

米国経済は緩やかな回復傾向が続いているものの、欧州では債務危機に端を発した景気低迷からの本格的な回復には未だ至っておらず、新興国においても経済成長に減速傾向が見られるなど、世界経済の動向は依然として不透明な状況にあります。一方、国内においては、日銀による金融緩和や政府による財政政策の効果もあり、国内需要が底堅く推移するなど、景気は緩やかに回復しつつあります。

医薬品市場の動向をみると、大型製品の相次ぐ特許切れの影響に加え、各国で財政再建を背景とする医療費抑制策の強化が進んでいることなどにより、先進国を中心に成長が鈍化しております。また研究開発においても承認審査の厳格化や技術革新の壁に直面し、画期的な新薬の創出は困難となってきましたが、iPS 技術をはじめとする再生医療技術の実用化や、アンメット・ニーズを満たす新薬の創出に繋がるイノベーションに大きな期待が寄せられています。

このような環境のもと、当社は、グローバルカンパニーとして、2020 年のあるべき姿を示す「ビジョン2020」を昨春策定し、「革新的な医薬品に加え、高品質なブランドジェネリック医薬品(特許の切れた先発品)、ワクチン、一般用医薬品(OTC 医薬品)をお届けすることで、少しでも早く、少しでも多くの人々の願いに応えていく」ことを当社の長期目標と決めました。

このビジョンの実現に向け、2013 年度を起点とする新中期成長戦略をスタートさせ、「グローバル化の推進(Globalization)」、「多様性の追求(Diversity)」、「革新への挑戦(Innovation)」を基本方針として、これまでの戦略の深化・発展に取り組んでおります。

特に今後は、多様な製品の幅広い市場での活用を通じた売上の拡大や競争力の高い後期開発パイプラインの確実な進捗に取り組んでまいります。また、これと並行して、グローバル製薬企業に相応しい強靱かつ効率的なオペレーティングモデルの構築を進めており、その具体的な取り組みとして、今年度においては、CFO(Chief Financial Officer)、GHRO(Global Human Resource Officer)を新たに採用・任命しましたが、そのグローバルでの豊富な経験を活かして、売上と利益の成長を推進する、あらゆるオペレーションの有効性と効率性を追求した全社的な施策である Project Summit への取り組みをより一層強化してまいります。

<販売関連>

先進国においては、既存品から新製品へと製品構成の転換を進めており、新興国においては、市場成長率を上回る成長の実現に向け、当社の新製品に加えて、各市場のニーズに合致した製品の獲得・育成に向けた取り組みを推進しております。

米国においては、昨年6月に販売を開始した2型糖尿病治療剤「ネシーナ」、「カザーノ(「ネシーナ」と「メトホルミン」の合剤)」、「オセーニ(「ネシーナ」とチアゾリジン系の2型糖尿病治療剤「アクトス」の合剤)」の売上拡大に注力しております。「オセーニ」は、DPP-4 阻害薬とチアゾリジン系薬剤の合剤としては、米国で初めての製品となります。また、昨年9月に、米国食品医薬品局(FDA)より大うつ病治療剤「プリンテリックス」の販売許可を取得し、本年1月に販売促進活動を開始いたしました。本剤は、大うつ病に対する新しい治療剤であり、米国における臨床試験の結果から、高用量投与時により高い治療効果が示されたことから、患者さんの症状に応じた幅広い用量の処方が可能となります。

欧州においては、ナイコメッド社買収により重複する事業が存在する地域での販売子会社の整理・統合も概ね終了し、さらに、製造および研究開発拠点の統廃合を通じた事業運営体制の合理化を進めており、コスト削減のシナジー効果も確実に実現しております。また、悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が極めて順調に伸長しております。昨年12月には、同剤にかかる臨床試験を通じて、十分

な治療歴のあるホジキンリンパ腫および全身性未分化大細胞リンパ腫の患者さんにおいて生存期間延長効果を示す最新データを発表しました。

日本においては、戦略製品である2型糖尿病治療剤「ネシーナ」ファミリー、高血圧症治療剤「アジルバ」の売上最大化に注力しており、特に、「アジルバ」については、昨年5月に長期処方解禁されたことを機に、一段と処方が拡大しております。さらに当社は、一般財団法人 阪大微生物病研究会と、同財団が製造する水痘ワクチンについて日本における仕入販売契約を締結し、本年2月より、本ワクチンの販売を開始いたします。

新興国においては、成長が見込まれる市場における営業基盤の拡大を図っており、当期においては、昨年12月にイスラエルに販売子会社を設立いたしました。

<研究開発関連>

当社の研究開発の意義は、アンメットメディカルニーズに応えるために、経営資源を投入し、革新的な医薬品の創出に挑戦し続けることにあります。その考えに基づき、当社は充実した開発後期のパイプラインの早期承認取得に向けた活動に注力しております。なお、当期における各地域・国別の主な成果は以下のとおりです。

米国においては、昨年6月、クローン病・潰瘍性大腸炎治療薬「MLN0002(一般名: vedolizumab)」の販売許可を申請しました。本薬は、昨年12月にFDAの諮問委員会において、潰瘍性大腸炎およびクローン病の治療薬として、FDAでの承認を推奨するとの見解が示されました。また、昨年9月、大うつ病治療剤「プリンテリックス」について、FDAより販売許可を取得しました。

欧州においては、昨年8月、非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩」のスイスでの販売許可を取得し、同9月に販売を開始いたしました。さらに同月、2型糖尿病治療剤「ビピディーア(注1)」、「ビブドメット(注2)」および「インクリーシンク(注3)」について欧州での販売許可を取得し、同11月に販売を開始いたしました。

また、中国においても、昨年7月、2型糖尿病治療剤「ネシーナ」の輸入販売許可を取得し、同12月に販売を開始いたしました。

さらに、日本においては、昨年9月に肥満症治療剤「オブリーン」の製造販売承認を取得いたしました。また、同12月にエチレングリコール・メタノール中毒治療薬「ホメピゾール」の製造販売承認を申請しました。さらに本年1月には、悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」の製造販売承認を取得いたしました。

また、ワクチン事業においては、昨年5月、米国「インビラージェン Inc.」を買収し、デング熱ワクチンなどの開発パイプラインを拡充しました。加えて、昨年9月には、日本において、インフルエンザ菌b型(Hib)による感染症の予防を目的としたHibワクチン「TAK-816」の製造販売承認を申請しました。

今後も、当社は、自社研究開発のみならず、他社との研究アライアンス活動や共同研究等の事業開発を通じて、費用効率を改善しつつ、研究開発生産性の更なる向上に努めてまいります。

研究開発活動の詳細につきましては、9ページの「④研究開発活動の内容および成果」をご参照下さい。

(注1)日本・米国製品名「ネシーナ」、(注2)米国製品名「カザール」、(注3)日本製品名「リオベル」、米国製品名「オセーニ」

当社は、230年を超える長い歴史の中で培われた普遍的価値観である「タケダイズム(誠実:公正・正直・不屈)」を根幹に、さらなるコンプライアンスの徹底を図り、今後も、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」というミッションの実現に向けて邁進してまいります。

＜ご参考＞ 2010年以降に発売した主要製品

[日本]

＜2010年 発売＞

- 2型糖尿病治療剤「ネシーナ錠(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」
- 高血圧症治療剤「ユニシア配合錠(「プロプレス」とカルシウム拮抗剤(アムロジピンベシル酸塩)の合剤)」
- 抗癌剤「ベクティビックス点滴静注(一般名:パニツムマブ)」
- 不眠症治療剤「ロゼレム錠(一般名:ラメルテオン)」
- 2型糖尿病治療剤「メタクト配合錠(「アクトス」とビグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「アクトス OD 錠(口腔内崩壊錠)」
- ヘリコバクター・ピロリ二次除菌用組み合わせ製剤「ランピオンパック(「タケブロン」、アモキシシリン水和物およびメトロンダゾールの組み合わせ製剤)」

＜2011年 発売＞

- アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール(一般名:ガランタミン臭化水素酸塩)」(「ヤンセンファーマ株式会社」からの導入品であり同社と共同販売を実施)
- 2型糖尿病治療剤「ソニアス配合錠(「アクトス」とスルホニルウレア系薬剤(グリメピリド)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「リオベル配合錠(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

＜2012年 発売＞

- 高血圧症治療剤「アジルバ錠(一般名:アジルサルタン)」

＜2013年1月 発売＞

- 高脂血症治療剤「ロトリガ粒状カプセル(一般名:オメガ-3脂肪酸エチル)」

[北米]

(米国)

＜2010年 発売＞

- 2型糖尿病治療剤「アクトプラスメット XR(「アクトス」とビグアナイド系薬剤(メホルミン徐放製剤)の合剤)」

＜2011年 発売＞

- 高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」

＜2012年 発売＞

- 高血圧症治療剤「イダーバクロー(「イダービ」とサイアザイド系利尿剤(クロルタリドン)の合剤)」

＜2013年6月 発売＞

- 2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」
- 2型糖尿病治療剤「カザーノ(「ネシーナ」とビグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「オセーニ(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

＜2014年1月 発売＞

- 大うつ病治療剤「プリンテリックス(一般名:ボルチオキセチン臭化水素酸塩)」

(カナダ)

＜2010年 発売＞

- 逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」
- 痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック(一般名:フェブキソスタット)」

＜2011年 発売＞

- 慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

＜2012年 発売＞

- 鉄欠乏症貧血治療剤「フェラヘム(一般名:フェルモキシトール)」

[欧州]

＜2010年 発売＞

- 非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

＜2012年 発売＞

- 高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」
- 鉄欠乏症貧血治療剤「リエンゾ(一般名:フェルモキシトール)」
- 悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス(一般名:ブレンツキシマブ・ベドチン)」

＜2013年9月 発売＞

- 非定型抗精神病薬「ラツーダ(一般名:ルラシドン塩酸塩)」

＜2013年11月 発売＞

- 2型糖尿病治療剤「ビピディーア(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」
- 2型糖尿病治療剤「ビブドメット(「ネシーナ」とビグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「インクリーシンク(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

[新興国のうち主なもの]

(ブラジル)

<2011年 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

(ロシア)

<2012年 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

(メキシコ)

<2011年 発売>

逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」

非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

<2012年 発売>

高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」

<2013年1月 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

<2013年3月 発売>

高血圧症治療剤「イダーバクロー(「イダービ」とサイアザイド系利尿剤(クロルタリドン)の合剤)」

(中国)

<2013年12月 発売>

2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」

②当期(2013年4-12月期)における業績の概要

当期の連結業績は、以下のとおりとなりました。

売上高	12,869億円	[対前年同期	978億円(8.2%) 増]
営業利益	1,694億円	[〃	187億円(12.4%) 増]
経常利益	1,569億円	[〃	56億円(3.7%) 増]
四半期純利益	1,110億円	[〃	279億円(20.1%) 減]

〔売上高〕

前年同期から978億円(8.2%)増収の12,869億円となりました。

・国内では一昨年に販売を開始した高血圧症治療剤「アジルバ」に加え、2型糖尿病治療剤「ネシーナ」が伸長しました。また、米国では多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」、逆流性食道炎治療剤「デクスラント」の伸長に加え、一昨年6月に買収した「URLファーマ社」から獲得した痛風・高尿酸血症治療剤「コルクリス」の増収効果がありました。欧州では悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が極めて順調に売上を伸ばしているほか、アジアを含む新興国では消化性潰瘍治療剤「パントプラゾール」などの販売が拡大しています。さらに、為替レートが円安となった影響(1,215億円のプラス)などもあり、主として米国において特許期間満了に伴い後発品が参入したことによる2型糖尿病治療剤「アクトス」の大幅な減収(797億円)を吸収し、全体では978億円の増収となりました。

・医療用医薬品の主要品目の売上高は下記のとおりです。

高血圧症治療剤 「カンデサルタン(国内製品名:プロプレス)」	1,229億円	対前年同期	99億円(7.5%)減
前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤 「リュープロレリン(国内製品名:リュープリン)」	959億円	〃	82億円(9.4%)増
消化性潰瘍治療剤 「ランソプラゾール(国内製品名:タケプロン)」	901億円	〃	45億円(5.2%)増
消化性潰瘍治療剤 「パントプラゾール」	772億円	〃	207億円(36.7%)増
多発性骨髄腫治療剤 「ベルケイド」(米国売上高)	714億円	〃	175億円(32.5%)増
痛風・高尿酸血症治療剤 「コルクリス」(米国売上高)	381億円	〃	153億円(66.7%)増(注)
2型糖尿病治療剤 「ピオグリタゾン(国内製品名:アクトス)」	295億円	〃	797億円(73.0%)減

(注) 2012年6月の米国「URLファーマ社」買収に伴い獲得した「コルクリス」について、買収前の2012年4月から5月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

〔営業利益〕

前年同期から187億円(12.4%)増益の1,694億円となりました。

・販売費及び一般管理費は為替レートが円安となった影響(1,097億円の費用増加)により563億円(8.0%)増加しましたが、売上高の増加により売上総利益が750億円(8.8%)増益となったことにより、営業利益は増益となりました。

・研究開発費は、66億円(2.9%)増加し、2,382億円となりました。

・研究開発費以外の販売費及び一般管理費は、海外子会社における事業運営体制の合理化による経費削減効果等があったものの、為替レートが円安となった影響により497億円(10.6%)増加し、5,200億円となりました。

・企業買収による特殊要因除きの営業利益(注)は、前年同期から 282 億円(11.1%)増益の 2,835 億円となりました。

(注)営業利益から、企業買収によるのれん償却費・無形固定資産償却費等の特殊要因を控除して算定しております。

〔経常利益〕

前年同期から 56 億円(3.7%)増益の 1,569 億円となりました。

営業利益の増益が為替差損の増加などによる 131 億円の営業外損益の悪化を吸収し、経常利益は増益となりました。

〔四半期純利益〕

前年同期から 279 億円(20.1%)減益の 1,110 億円となりました。

・経常利益が増益となったことに加え、特別損益で 233 億円の益(注)を計上したものの、前年同期においては、過年度納付した移転価格税制に基づく追徴税の還付金(還付税金および還付加算金)を 528 億円(益)計上していたことから、四半期純利益は減益となりました。

(注)投資有価証券売却益 374 億円および事業運営体制の合理化費用(損)140 億円

・1株当たり四半期純利益は、前年同期から 35 円 36 銭(20.1%)減少し、140 円 60 銭となりました。
 ・特別損益および企業買収などによる特殊要因除きの四半期純利益(注)は、前年同期から 236 億円(14.1%)増益の 1,912 億円となり、同1株当たり四半期純利益は、前年同期から 29 円 93 銭(14.1%)増加し、242 円 18 銭となりました。

(注)四半期純利益から、特別損益、企業買収によるのれん償却費・無形固定資産償却費等の特殊要因および移転価格税制に係る還付税金を控除して算定しております。

③当期(2013年4-12月期)におけるセグメント別業績の状況

当期における各セグメントの売上高および営業利益は、以下のとおりとなりました。

セグメント	売上高		営業利益	
	金額	対前年同期	金額	対前年同期
医療用医薬品事業	11,634 億円	928 億円増	1,430 億円	134 億円増
〈国内〉	〈4,541 億円〉	〈51 億円減〉		
〈海外〉	〈7,093 億円〉	〈979 億円増〉		
ヘルスケア事業	573 億円	42 億円増	166 億円	32 億円増
その他事業	693 億円	5 億円増	109 億円	17 億円増
全社合計	12,869 億円	978 億円増	1,694 億円	187 億円増

(注)各セグメントの売上高は、各報告セグメントの外部顧客に対する売上高を表しております。

〔医療用医薬品事業〕

医療用医薬品事業の売上高は前年同期から 928 億円(8.7%)増収の 11,634 億円となり、営業利益は前年同期から 134 億円(10.3%)増益の 1,430 億円となりました。

このうち国内売上高は、「ネシーナ」、「アジルバ」をはじめとする 2010 年以降に発売した製品群の寄与があったものの、「アクトス」および「ブロプレス」の減収や販売契約終了に伴う一部の仕入品の売上減少を吸収できず、51 億円(1.1%)減収の 4,541 億円となりました。

主な品目の国内売上高は下記のとおりです。

「プロプレス」(高血圧症治療剤)	1,000 億円	対前年同期 41 億円(4.0%)減
「タケプロン」(消化性潰瘍治療剤)	540 億円	〃 3 億円(0.6%)増
「リュープリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	512 億円	〃 4 億円(0.9%)増
「ネシーナ」(2型糖尿病治療剤)	295 億円	〃 37 億円(14.5%)増
「アジルバ」(高血圧症治療剤)	159 億円	〃 137 億円(638.8%)増
「ベクティビックス」(抗悪性腫瘍剤)	148 億円	〃 1 億円(0.8%)増
「アクトス」(2型糖尿病治療剤)	125 億円	〃 28 億円(18.1%)減

海外売上高は、米欧における「ピオグリタゾン」および「カンデサルタン」の後発品参入による大幅な減収があったものの、一昨年の「URLファーマ社」の買収による「コルクリス」の売上寄与およびアジアを含む新興国での増収に加え、為替レートが円安となった影響により、前年同期から 979 億円(16.0%)増収の 7,093 億円となりました。

主な品目の海外売上高は下記のとおりです。

「パントプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	772 億円	対前年同期 207 億円(36.7%)増
「ベルケイド」(多発性骨髄腫治療剤)	714 億円	〃 175 億円(32.5%)増
「リュープロレリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	447 億円	〃 78 億円(21.1%)増
「コルクリス」(痛風・高尿酸血症治療剤)	381 億円	〃 153 億円(66.7%)増(注)
「デクスラント」(逆流性食道炎治療剤)	362 億円	〃 127 億円(54.2%)増
「ランソプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	361 億円	〃 41 億円(12.9%)増
「カンデサルタン」(高血圧症治療剤)	230 億円	〃 58 億円(20.1%)減
「ピオグリタゾン」(2型糖尿病治療剤)	170 億円	〃 769 億円(81.9%)減

(注) 2012 年6月の米国「URLファーマ社」買収に伴い獲得した「コルクリス」について、買収前の 2012 年4月から5月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

[ヘルスケア事業]

ヘルスケア事業の売上高は、「アリナミン錠剤類」、「アリナミンドリンク類」、「ベンザ類」等の増収により、前年同期から 42 億円(7.9%)増収の 573 億円となりました。営業利益は増収に伴う売上総利益の増益等により、32 億円(24.2%)増益の 166 億円となりました。

[その他事業]

その他事業の売上高は前年同期から5億円(0.7%)増収の 693 億円、営業利益は主に期間経費の減少により 17 億円(18.8%)増益の 109 億円となりました。

④研究開発活動の内容および成果

当社は、「緊急性」、「イノベーション」、「パフォーマンス評価」、「連携」の研究開発における4つの行動原則に、「Quality of Thought(注1)」と「Operational Excellence(注2)」という2つの方針を加えた戦略および取り組みにより、研究開発生産性を着実に向上させています。当社は、アンメットメディカルニーズが高く、当社の強みが発揮できる「代謝性・循環器系疾患」、「癌」、「中枢神経系疾患」、「免疫・呼吸器系疾患」、「消化器・腎臓系・その他疾患」、「ワクチン」を重点領域と位置付け、経営資源を投下し、画期的新薬の創出に挑戦しています。短期的には「充実した開発後期パイプラインの価値最大化」、中期的には「開発中期パイプラインの拡充」、長期的には「創薬研究能力の競合優位性、生産性の強化」に取り組み、引き続き研究開発生産性の更なる向上に努めてまいります。なお、研究開発の戦略を整合させつつ、強靱かつ効率的なオペレーティングモデルを構築するため、当社の100%子会社であるミレニアム社の癌領域に関する研究開発機能を、昨年5月、CMSO部門に統合しました。当期における研究開発活動の主な内容および成果は下記のとおりです。

(注1)思考の質

(注2)業務改善プロセスを徹底させ、オペレーションを最大限まで効率化させること

[自社創製品に関する取り組み]

- ・昨年4月、高血圧症治療剤「アジルバ(一般名:アジルサルタン)」とアムロジピンベシル酸塩の合剤について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。
- ・昨年6月、多発性骨髄腫治療薬「MLN9708(一般名:ixazomib citrate)」について、米国臨床腫瘍学会年次集会(ASCO)において、再発・難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした単独投与の臨床第1相試験結果を発表しました。
昨年11月、グローバルで実施している再発・難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした臨床第3相試験(TOURMALINE-MM1試験)への日本の参加を決定し、本試験を開始しました。
また、昨年12月、第55回米国血液学会年次総会(ASH)において、未治療の多発性骨髄腫患者を対象とした、「MLN9708」と「レナリドミド」および「デキサメタゾン」併用療法の臨床第1/2相試験について、第1相パートの最終結果と第2相パートの初期データを発表しました。
- ・昨年6月、クローン病・潰瘍性大腸炎治療薬「MLN0002(一般名:vedolizumab)」について、成人の中等度から重度の活動期クローン病および潰瘍性大腸炎を対象とした生物学的製剤承認申請を米国食品医薬品局(FDA)に提出し、昨年9月、潰瘍性大腸炎を適応症とした生物学的製剤承認申請がFDAより優先審査に指定されました。
昨年12月、FDAの消化器系用薬諮問委員会および医薬安全・リスク管理諮問委員会の合同委員会において、「MLN0002」について、成人の中等度から重度の潰瘍性大腸炎およびクローン病の治療薬として、FDAでの承認を推奨するという見解が示されました。また、同月、FDAより、優先審査対象となっている成人の中等度から重度の活動期潰瘍性大腸炎を適応症とした申請に関する審査終了目標日を延期する旨の通知を受領しました。
本年1月、「MLN0002」について、日本における中等度から重度の潰瘍性大腸炎およびクローン病を対象とした2つの臨床第3相試験を開始しました。
なお、昨年8月、「MLN0002」の臨床第3相試験結果が医学雑誌「*The New England Journal of Medicine*」に掲載されました。
- ・昨年7月、前立腺癌治療薬「TAK-700(一般名:オルテロネル)」の、転移性・去勢抵抗性前立腺癌患者を対象としたグローバルで実施している臨床第3相試験「ELM-PC5(Evaluation of the Lyase inhibitor orteronel in Metastatic Prostate Cancer 5)試験」(C21005試験)について、試験計画に

従って実施した中間解析の結果、独立データモニタリング委員会 (IDMC) の推奨に基づき盲検解除しました。IDMC による中間解析では、「TAK-700」投与群は、プラセボ投与群と比較して、主要評価項目である全生存期間において改善がみられませんでした。一方、副次評価項目である画像上での無増悪生存期間を改善することが示されました。また、安全性に懸念する点はありませんでした。

- ・昨年7月、2型糖尿病治療剤「ビピディーア(一般名:アログリプチン)」、「ビプドメット(「ビピディーア」と同治療剤「メホルミン」の合剤)」、および「インクリーシンク(「ビピディーア」と同治療剤「アクトス」の合剤)」について、欧州医薬品庁(EMA)の欧州医薬品評価委員会(CHMP)より販売承認を推奨する見解が示され、同年9月、欧州委員会(EC)より販売許可を取得しました。昨年7月、2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン)」について、中国国家食品薬品监督管理局(CFDA)より輸入販売許可を取得しました。
また、昨年9月、「アログリプチン」について、欧州心臓学会(ESC)において、心血管への安全性を評価した試験(EXAMINE 試験)の結果概要を発表しました。なお、本試験結果については医学雑誌「*The New England Journal of Medicine*」に掲載されました。
- ・昨年10月、当社が現在開発中のノロウイルスワクチン(筋注、GI/GII の2価ワクチン)について、米国感染症学会週間(Infectious Disease Week 2013)において、臨床第1/2相試験の結果を発表しました。
- ・昨年12月、多発性骨髄腫治療剤「バルケイド(一般名:ボルテゾミブ)」について、第55回ASHにおいて、未治療の多発性骨髄腫患者を対象とした臨床第3相試験であるVISTA試験から得られた全生存期間に関する試験結果を発表しました。
- ・昨年12月、2型糖尿病治療薬「TAK-875(一般名:fasiglifam)」について、肝における安全性の懸念から、本薬のグローバルでの開発中止を決定しました。

[導入品(アライアンス)に関する取り組み]

- ・昨年5月、デンマーク「ルンドベック社」より導入した大うつ病治療剤「ブリンテリックス(一般名:ボルチオキセチン臭化水素酸塩)」について、第166回米国精神医学会年次総会において、成人の大うつ病患者を対象とした臨床第3相試験結果を発表しました。昨年9月、本剤について、FDAより、成人の大うつ病を適応症とした販売許可を取得しました。
- ・昨年6月、米国「シアトルジェネティクス社」より導入した悪性リンパ腫治療剤「ADCETRIS(一般名:ブレンツキシマブ・ベドチン)」について、ASCOにおいて、小児の再発・難治性CD30陽性ホジキンリンパ腫患者または全身性未分化大細胞リンパ腫患者を対象とした臨床第1/2相試験の第1相パートの中間解析結果を発表しました。
また、昨年12月、第55回ASHにおいて、再発・難治性ホジキンリンパ腫患者および再発・難治性全身性未分化大細胞リンパ腫患者を対象とした2つの臨床第2相試験の全生存期間に関する最新データを発表しました。
本年1月、本剤について、再発・難治性のCD30陽性ホジキンリンパ腫および再発・難治性のCD30陽性未分化大細胞リンパ腫を適応症として、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。
- ・昨年7月、米国「アフィマックス社」より導入した腎性貧血治療薬「ペギネサタイド(一般名)」について、透析期患者(成人)を対象とした腎性貧血の効能で、2012年2月にEMAに提出していた販売許可申請を取り下げました。

- ・昨年7月、当社と米国「ジンファンデル社」は、国際アルツハイマー病学会において、TOMM40 遺伝子も加えたバイオマーカーを用いたアルゴリズムによるアルツハイマー病発症リスク評価のシミュレーションの結果を発表しました。昨年8月、「AD-4833 (一般名:ピオグリタゾン) / TOMM40」について、臨床第3相試験 (TOMMORROW 試験)を開始しました。
- ・昨年8月、「大日本住友製薬株式会社」より導入した非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩 (一般名)」について、統合失調症を適応症として、スイス医薬品局 (swissmedic)より販売許可を取得しました。また、本年1月、EMA の CHMP より、本薬の承認を推奨する見解が示されました。
- ・昨年9月、オランダ「ノルジーン社」より導入した肥満症治療剤「オブリーン (一般名:セチリスタット)」について、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。
- ・昨年9月、スイス「ノバルティス社」より導入した Hib ワクチン「TAK-816」について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。
- ・昨年 12 月、当社は、米国「ナトロジェン・セラピューティクス・インターナショナル社」と、同社が保有する潰瘍性大腸炎治療薬「Natura-alpha」に関し、当社が独占的開発権等とともに、同社買収のオプション権を取得する契約を締結しました。「Natura-alpha」は、炎症性サイトカイン発現を阻害し、消化管の炎症を抑制する経口の低分子化合物であり、臨床第2相試験の段階にあります。
- ・昨年 12 月、カナダ「パラディン社」より導入したエチレングリコール・メタノール中毒治療薬「ホメピゾール (一般名)」について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。

[共同研究に関する取り組み]

- ・昨年9月、当社は、米国の「メモリアル・スローン・ケタリング癌センター」、「ロックフェラー大学」、「コーネル大学」およびこれら3つのアカデミア研究機関が共同で設立した「Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute (Tri-I TDI)」と共同研究に関する契約を締結しました。Tri-I TDI の目的は、基礎研究の成果を、特定の生体内反応と疾病の発症・進展の関係について医薬品候補化合物を用い検証する「プルーフ・オブ・コンセプト (POC) (注)」試験へ進めることにあります。

(注)ヒトにおける有効性・安全性の実証

- ・昨年 12 月、当社は、「一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (Global Health Innovative Technology Fund)」の第1回助成案件に選定された Medicines for Malaria Venture (MMV) の抗マalaria薬「DSM265」の開発および「ELQ300」の製剤化について、MMV と共同研究開発を実施する契約締結を発表しました。

[研究開発体制の整備・強化]

- ・昨年5月、ワクチン事業の強化を目的として、米国「インビラージェン Inc.」を買収しました。
- ・昨年8月、国内の癌領域開発体制の強化を目的として、当社の 100%子会社である「武田バイオ開発センター株式会社」と、同社全事業に関する事業譲渡契約を締結するとともに、2014年4月に事業譲渡を完了し、その後同社を解散することを決定しました。

(2) 財政状態に関する説明

〔資産〕

当四半期末における総資産は4兆4,258億円となり、前連結会計年度末に比べ4,702億円増加しました。社債の発行および借入の実行に伴い、当座資産を中心に流動資産が3,292億円増加したことに加え、期末日レートの円安に推移したことによる海外資産の円換算額の増加や、「インビラージュエン Inc.」の買収に伴うのれんを含む無形固定資産の増加などにより、固定資産が1,410億円増加しました。

〔負債〕

当四半期末における負債は1兆9,725億円となり、前連結会計年度末に比べ2,403億円増加しました。社債の発行および借入の実行により固定負債が2,728億円増加したものの、法人税の支払等により流動負債が325億円減少しました。

〔純資産〕

当四半期末における純資産は2兆4,532億円となりました。配当金の支払があったものの、純利益による増加に加え、円安に伴う為替換算調整勘定の改善などにより前連結会計年度末に比べ2,299億円増加しました。

自己資本比率は53.8%となり、前連結会計年度末から0.8ポイント減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、当四半期累計期間の実績、前提となる為替レートの見直し等を加味した結果、平成25年10月31日に公表した予想から下記のとおり修正いたします。

〔平成26年3月期の通期連結業績予想〕

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益 (EPS)
前回発表予想(A)	16,800億円	1,400億円	1,250億円	950億円	120円34銭
今回修正予想(B)	16,900億円	1,500億円	1,350億円	1,000億円	126円67銭
増減額(B-A)	100億円増	100億円増	100億円増	50億円増	
増減率	0.6%増	7.1%増	8.0%増	5.3%増	

〔見通しの前提条件〕

第4四半期の為替レートは、1米ドル=105円、1ユーロ=140円を前提とし、第3四半期累計期間の実績と合わせた通期の為替レートの前提は、1米ドル=100円、1ユーロ=133円としております。

〔見通しに関する注意事項〕

当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。事業環境等の変化により、当社業績に重大な影響が生じると判断した場合には、速やかにご報告いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,613	441,329
受取手形及び売掛金	345,532	427,770
有価証券	258,092	291,317
商品及び製品	108,328	110,932
仕掛品	65,168	76,956
原材料及び貯蔵品	56,035	64,010
繰延税金資産	240,149	240,985
その他	95,330	135,138
貸倒引当金	△3,166	△4,140
流動資産合計	1,455,081	1,784,297
固定資産		
有形固定資産	511,101	507,295
無形固定資産		
のれん	675,353	748,706
特許権	363,057	365,016
販売権	582,869	651,079
その他	68,456	91,712
無形固定資産合計	1,689,735	1,856,513
投資その他の資産		
投資有価証券	176,702	174,197
その他	123,047	103,600
貸倒引当金	△67	△116
投資その他の資産合計	299,682	277,681
固定資産合計	2,500,518	2,641,489
資産合計	3,955,599	4,425,786

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	118,692	122,927
短期借入金	1,795	1,422
未払法人税等	113,430	21,472
賞与引当金	72,338	53,426
その他の引当金	10,928	15,790
その他	296,449	366,046
流動負債合計	613,632	581,084
固定負債		
社債	428,830	548,830
長期借入金	111,329	241,250
繰延税金負債	322,133	339,950
退職給付引当金	60,153	71,376
その他の引当金	19,842	18,416
その他	176,320	171,636
固定負債合計	1,118,608	1,391,458
負債合計	1,732,240	1,972,542
純資産の部		
株主資本		
資本金	63,541	63,562
資本剰余金	39,381	38,180
利益剰余金	2,243,113	2,212,006
自己株式	△587	△614
株主資本合計	2,345,449	2,313,133
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77,960	79,544
繰延ヘッジ損益	—	△625
為替換算調整勘定	△264,403	△10,506
その他の包括利益累計額合計	△186,443	68,413
新株予約権	934	1,356
少数株主持分	63,418	70,341
純資産合計	2,223,359	2,453,243
負債純資産合計	3,955,599	4,425,786

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,189,109	1,286,875
売上原価	336,556	359,320
売上総利益	852,553	927,555
販売費及び一般管理費		
研究開発費	231,574	238,194
その他	470,307	520,004
販売費及び一般管理費合計	701,881	758,198
営業利益	150,672	169,357
営業外収益		
受取利息	838	777
受取配当金	3,444	3,094
為替差益	2,442	—
持分法による投資利益	778	754
受取賃貸料	3,590	3,296
営業譲渡益	3,933	4,159
その他	3,554	7,724
営業外収益合計	18,580	19,803
営業外費用		
支払利息	2,268	3,151
寄付金	2,109	1,300
為替差損	—	3,397
条件付取得対価に係る公正価値変動額	4,115	8,036
その他	9,459	16,339
営業外費用合計	17,951	32,225
経常利益	151,300	156,935
特別利益		
投資有価証券売却益	17,039	37,355
法人税等還付加算金	11,593	—
特別利益合計	28,631	37,355
特別損失		
事業構造再編費用	13,969	14,021
特別損失合計	13,969	14,021
税金等調整前四半期純利益	165,963	180,269
法人税等	71,161	65,814
過年度法人税等	△45,623	—
法人税等合計	25,539	65,814
少数株主損益調整前四半期純利益	140,425	114,455
少数株主利益	1,512	3,457
四半期純利益	138,912	110,998

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	140,425	114,455
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,206	1,618
繰延ヘッジ損益	△92	△625
為替換算調整勘定	65,978	255,942
持分法適用会社に対する持分相当額	3,150	113
その他の包括利益合計	62,830	257,049
四半期包括利益	203,255	371,504
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	201,208	365,854
少数株主に係る四半期包括利益	2,047	5,650

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	1,070,619	53,071	68,760	1,192,450	△ 3,341	1,189,109
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,367	298	4,802	7,467	△ 7,467	—
計	1,072,987	53,369	73,561	1,199,917	△ 10,808	1,189,109
セグメント利益	129,644	13,366	9,212	152,222	△ 1,550	150,672

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	1,163,386	57,282	69,264	1,289,931	△ 3,057	1,286,875
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,272	774	4,663	7,710	△ 7,710	—
計	1,165,657	58,056	73,927	1,297,641	△ 10,767	1,286,875
セグメント利益	143,043	16,596	10,948	170,586	△ 1,230	169,357

(注)セグメント利益は、各セグメントの営業利益を表示しております。

2. 地域ごとの情報

売上高

前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

(単位:百万円)

日本	北米		欧州	ロシア /CIS	中南米	アジア	その他	合計
	うち米国							
571,024	282,933	270,586	179,365	48,359	46,325	44,942	16,161	1,189,109

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

(単位:百万円)

日本	北米		欧州	ロシア /CIS	中南米	アジア	その他	合計
	うち米国							
570,014	281,095	263,518	224,708	66,944	59,211	62,819	22,084	1,286,875

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
 2. 第2四半期連結会計期間より、先進国地域と新興国地域の区分をより明瞭にするため、地域区分を変更し、従来の「米州」を「北米」と「中南米」に分割し、「欧州」を「欧州」と「ロシア/CIS」に分割しております。
 なお、前第3四半期連結累計期間については変更後の区分により作成しております。
 3. 「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれております。

(販売実績(外部顧客に対する売上高))

前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

(単位:百万円)

医療用医薬品事業			ヘルスケア事業	その他事業	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
459,241	611,378	1,070,619	53,071	68,760	△ 3,341	1,189,109	(34,750)

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

(単位:百万円)

医療用医薬品事業			ヘルスケア事業	その他事業	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
454,135	709,251	1,163,386	57,282	69,264	△ 3,057	1,286,875	(64,462)

4. 補足情報

(1) 連結医療用医薬品売上高

	(億円)				(億円)			
	平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
国内製商品売上高	4,603	4,548	△55	△1.2%	1,631	1,633	2	0.1%
海外製商品売上高	5,738	6,402	665	11.6%	1,818	2,229	412	22.6%
北米	2,701	2,528	△173	△6.4%	759	868	109	14.4%
うち米国	2,580	2,357	△223	△8.6%	716	805	89	12.4%
欧州	1,526	1,812	287	18.8%	503	613	110	21.9%
ロシア/CIS	483	669	186	38.5%	188	257	68	36.4%
中南米	459	588	128	28.0%	168	210	42	25.1%
アジア	416	594	178	42.7%	150	212	63	41.9%
その他	153	212	59	38.5%	51	70	19	37.9%
知的財産権収益・役務収益	389	706	317	81.6%	161	292	130	80.7%
国内	13	16	3	25.2%	6	6	△0	△7.6%
海外	376	690	314	83.5%	155	286	131	84.4%
売上高 合計	10,730	11,657	927	8.6%	3,610	4,154	544	15.1%

(注)1. 売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

2. 第2四半期連結会計期間より、先進国地域と新興国地域の区分をより明瞭にするため、地域区分を変更し、従来の「米州」を「北米」と「中南米」に分割し、「欧州」を「欧州」と「ロシア/CIS」に分割しております。

なお、前第3四半期連結累計期間については変更後の区分により作成しております。

3. 「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれております。

連結医療用医薬品 海外売上高比率	57.0%	60.8%
------------------	-------	-------

	54.6%	60.5%
--	-------	-------

【為替レート】	(円)	
	平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計
ドル 平均レート(4-12月)	79.8	98.7
ユーロ 平均レート(4-12月)	102.0	130.8

【為替レート】	(円)	
	平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期
ドル 平均レート(10-12月)	79.8	99.7
ユーロ 平均レート(10-12月)	103.3	135.8

(*) 第3四半期の海外子会社の売上高は、累計平均レートで算出した第3四半期累計円貨と

第2四半期累計円貨の差引きにより算出したものであり、当四半期(3ヶ月)平均レートは参考としてのみの表示であります。

(2) 医療用医薬品 グローバル主要品目売上高

品目	(億円)				(億円)			
	平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
カンデサルタン	1,329	1,229	△99	△7.5%	437	406	△31	△7.0%
リユープロレリン	877	959	82	9.4%	303	318	15	4.8%
ランソプラゾール	856	901	45	5.2%	298	302	4	1.4%
パントプラゾール	565	772	207	36.7%	197	293	96	48.6%
ベルケイド	539	714	175	32.5%	182	241	59	32.3%
コルクリス	229	381	153	66.7%	105	124	19	18.0%
デクスラント	235	362	127	54.2%	84	126	42	50.8%
ネシーナ	258	310	53	20.4%	105	126	22	20.9%
ピオグリタゾン	1,092	295	△797	△73.0%	172	95	△77	△44.7%
アクトベジン	142	206	64	44.8%	59	81	22	36.8%
ユーロリック	128	194	67	52.1%	47	70	23	48.6%
アミティーザ	165	185	20	12.2%	58	64	6	10.9%
カルシウム	110	138	28	25.4%	41	50	9	22.9%
タコシール	101	127	26	26.2%	36	47	11	28.9%
アドセトリス	28	95	67	243.7%	10	33	23	224.5%
ダクサス	22	29	8	35.4%	8	10	3	36.2%

(3) 医療用医薬品 海外主要品目売上高(地域別)

品目	地域	(億円)				(億円)			
		平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期	対前年同期	
				金額	増減率			金額	増減率
カンデサルタン (注)2	北米・中南米・欧州・ロシア/CIS・アジア・その他	288	230	△58	△20.1%	69	63	△6	△8.6%
リユープロレリン	北米・中南米	107	127	20	19.1%	35	37	2	4.7%
	欧州・ロシア/CIS	205	245	40	19.6%	69	82	13	19.5%
	アジア・その他	57	74	17	30.6%	20	24	4	17.1%
ランソプラゾール	北米・中南米	196	203	7	3.8%	62	63	1	1.2%
	欧州・ロシア/CIS	79	94	15	19.2%	31	30	△1	△2.0%
	アジア・その他	45	64	19	41.8%	16	21	5	28.1%
パントプラゾール	北米・中南米	216	306	90	41.5%	77	133	56	73.3%
	欧州・ロシア/CIS	221	278	57	25.9%	75	101	26	34.4%
	アジア・その他	127	188	60	47.2%	45	59	14	30.5%
ピオグリタゾン	北米・中南米	842	65	△778	△92.3%	92	17	△75	△81.9%
	欧州・ロシア/CIS	62	58	△4	△6.1%	19	22	3	18.7%
	アジア・その他	34	47	12	35.9%	11	14	4	37.6%

(注)1. 上表には、「北米・中南米」、「欧州・ロシア/CIS」、「アジア・その他」の各地域で販売している主要品目を掲載しています。なお、「アジア・その他」には日本における売上高は含まれておりません。

2. カンデサルタンは、ライセンス先への輸出売上高を単一ルートで計上しているため、「北米・欧州・ロシア/CIS・中南米・アジア・その他」の1区分で表示しています。

(4) 医療用医薬品 国内主要品目売上高

品目(一般名)	発売年月	薬効区分	(億円)				(億円)			
			平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期	対前年同期	
					金額	増減率			金額	増減率
プロプレス (カンデサルタン)	(1999.6)	高血圧症治療剤	1,041	1,000	△41	△4.0%	368	343	△25	△6.7%
うち、エカード	(2009.3)	高血圧症治療剤	97	90	△7	△6.9%	34	31	△3	△10.0%
うち、ユニシア	(2010.6)	高血圧症治療剤	169	194	25	14.8%	63	69	6	10.3%
タケブロン(ランソプラゾール)	(1992.12)	消化性潰瘍治療剤	537	540	3	0.6%	189	188	△0	△0.3%
リユープリン(リユープロレリン)	(1992.9)	前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤	508	512	4	0.9%	178	175	△4	△2.2%
エンブレル	(2005.3)	抗リウマチ剤	333	344	10	3.1%	115	119	4	3.6%
ネシーナ	(2010.6)	糖尿病治療剤	258	295	37	14.5%	105	116	12	11.4%
うち、リオベル	(2011.9)	糖尿病治療剤	35	64	29	84.9%	17	26	9	55.1%
アジルバ	(2012.5)	高血圧症治療剤	21	159	137	638.8%	2	79	77	-
バクティビックス	(2010.6)	抗悪性腫瘍剤	147	148	1	0.8%	51	52	2	3.3%
ペイスン	(1994.9)	糖尿病治療剤	153	129	△24	△15.6%	51	43	△8	△16.6%
アクトス(ピオグリタゾン)	(1999.12)	糖尿病治療剤	153	125	△28	△18.1%	51	42	△9	△17.8%
ベネット	(2002.5)	骨粗鬆症治療剤	104	91	△13	△12.6%	35	31	△4	△12.0%
レミニール	(2011.3)	アルツハイマー型認知症治療剤	62	91	28	45.1%	25	33	8	33.5%
ロゼレム	(2010.7)	不眠症治療剤	33	45	11	33.4%	13	16	4	30.0%
ロトリガ	(2013.1)	高脂血症治療剤	-	35	35	-	-	17	17	-

(5) 一般用医薬品 主要品目売上高

品目	(億円)				(億円)			
	平成25年3月期 第3四半期累計	平成26年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成25年3月期 第3四半期	平成26年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
アリナミン錠剤類	123	150	27	21.8%	44	57	12	27.9%
アリナミンドリンク類	119	125	6	4.7%	39	42	3	6.8%
ベンザ類	86	90	4	4.6%	33	30	△3	△9.1%
ピオフェルミン類	63	65	2	2.4%	23	23	0	1.8%
ボラギノール類	33	33	△0	△0.1%	13	13	0	1.7%

(6) 開発の状況

■ 日米欧

開発コード／製品名 <一般名>	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
TAK-390MR <dexlansoprazole>	プロトンポンプ阻害薬 (経口剤)	逆流性食道炎の治療およびその維持療法、 非びらん性胃食道逆流症	欧州 承認(13/9)* ¹	自社品
SYR-322 <alogliptin>	DPP-4 阻害薬 (経口剤)	糖尿病 糖尿病(メホルミンとの合剤) 糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	欧州 承認(13/9) 欧州 承認(13/9) 欧州 承認(13/9)	自社品
ATL-962 <cetilistat>	リパーゼ阻害薬 (経口剤)	2型糖尿病および脂質異常症を合併した 肥満症	日本 承認(13/9)	導入品 (Norgine BV 社)* ²
Lu AA21004 <vortioxetine>	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病 全般性不安障害	米国 承認(13/9) 日本 P-III 米国 P-III	導入品 (Lundbeck 社)
SGN-35 <brentuximab vedotin>	CD30 モノクローナル抗体薬物 複合体(注射剤)	再発・難治性のホジキンリンパ腫 再発・難治性の未分化大細胞リンパ腫 再発性皮膚 T 細胞性リンパ腫 自己幹細胞移植後のホジキンリンパ腫 ホジキンリンパ腫(フロントライン適応) 成熟型 T 細胞性リンパ腫 (フロントライン適応)	日本 承認(14/1) 日本 承認(14/1) 欧州 P-III 欧州 P-III 欧州 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	導入品 (Seattle Genetics 社)
MLN0002 <vedolizumab>	ヒト化抗 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン モノクローナル抗体 (注射剤)	潰瘍性大腸炎 クローン病	米国 申請(13/6) 欧州 申請(13/3) 日本 P-III 米国 申請(13/6) 欧州 申請(13/3) 日本 P-III	自社品
<lurasidone hydrochloride>	非定型抗精神病薬 (経口剤)	統合失調症 双極性障害	欧州 申請(12/9) 欧州 P-III	導入品 (大日本住友製薬)
BLB-750	インフルエンザワクチン (注射剤)	インフルエンザパンデミックの予防	日本 申請(13/3)	導入品 (Baxter 社)
TAK-816	Hib ワクチン (注射剤)	Hib 感染症予防	日本 申請(13/9)	導入品 (Novartis 社)
Contrave[®] <naltrexone SR /bupropion SR>	μ オピオイド受容体拮抗薬・ ドーパミン/ノルエピネフリン 再取込阻害薬(経口剤)	肥満症	米国 申請(13/12)	導入品 (Orexigen 社)
ホメピゾール	アルコール脱水素酵素阻害薬 (注射剤)	エチレングリコール中毒およびメタノール中毒	日本 申請(13/12)	導入品 (Paladin Labs 社)
TAK-700 <orteronel>	非ステロイド系アンドロゲン合成 阻害薬(経口剤)	前立腺癌	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	自社品
MLN9708 <ixazomib citrate>	プロテアソーム阻害薬 (経口剤)	多発性骨髄腫 再発・難治性の多発性骨髄腫 再発・難治性の原発性 AL アミロイドーシス 固形癌	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III 米国 P-III 欧州 P-III 米国 P-I	自社品

*1 分散承認方式により、欧州 16 カ国において承認

*2 2009 年 10 月 15 日、Alizyme 社は ATL-962(cetilistat) 事業を Norgine BV 社に譲渡

開発コード/製品名 <一般名>	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
MLN8237 <alisertib>	オーロラA キナーゼ阻害薬 (経口剤)	再発・難治性の末梢性 T 細胞性リンパ腫	米国 P-III 欧州 P-III	自社品
		びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫、 非小細胞肺癌、小細胞肺癌、胃食道癌、 頭頸部癌、乳癌、卵巣癌	米国 P-II 欧州 P-II	
		非ホジキンリンパ腫	日本 P-I	
		固形癌	日本 P-I	
SYR-472 <trelagiptin>	DPP-4 阻害薬 (経口剤)	糖尿病	日本 P-III 米国 P-II 欧州 P-II	自社品
TAK-438 <vonoprazan>	カリウムイオン競合型アシッド ブロック(経口剤)	酸関連疾患 (胃食道逆流症、消化性潰瘍等)	日本 P-III	自社品
<motesanib diphosphate>	VEGFR1-3, PDGFR, c-Kit 阻害薬 (経口剤)	進行性非扁平上皮型非小細胞肺癌	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
AMG 386 <trebananib>	アンジオポエチン阻害 ペプチポディ(注射剤)	卵巣癌	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
<peginesatide>	エリスロポエチン受容体 作動薬(合成ペプチド) (注射剤)	透析期患者(成人)を対象とした腎性貧血	欧州 P-III*3	導入品 (Affymax 社)
DENVax	デング熱ワクチン(注射剤)	デング熱の予防	— P-II	自社品
TAK-385 <relugolix>	LH-RH アンタゴニスト (経口剤)	子宮内膜症、子宮筋腫 前立腺癌	日本 P-II — P-I	自社品
TAK-361S	4 種混合ワクチン (注射剤)	百日せき、ジフテリア、破傷風、ポリオによる 感染症の予防	日本 P-II	導入品 (日本ポリオ)
Natura-alpha	免疫抑制薬(経口剤)	潰瘍性大腸炎	— P-II	導入品 (Natrogen 社)
Norovirus vaccine	ノロウイルスワクチン (注射剤)	ノロウイルスによる急性胃腸炎の予防	— P-I / II	自社品
TAK-733 <->	MEK 阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	自社品
TAK-272 <->	直接的レニン阻害薬 (経口剤)	高血圧症	— P-I	自社品
TAK-063 <->	PDE10A 阻害薬 (経口剤)	統合失調症	— P-I	自社品
TAK-137 <->	AMPA 受容体 ポテンシエーター(経口剤)	精神疾患、神経疾患	— P-I	自社品
TAK-659 <->	SYK キナーゼ阻害薬(経口剤)	固形癌、血液癌	— P-I	自社品
INV21	EV71 ワクチン (注射剤)	エンテロウイルス 71 により発症する 手足口病の予防	— P-I	自社品
MLN4924 <->	NEDD8 活性化酵素阻害薬 (注射剤)	進行性癌	— P-I	自社品
MLN0128 <->	mTORC1/2 阻害薬 (経口剤)	多発性骨髄腫、 ワルデンシュトレームマクログロブリン血症、 固形癌	— P-I	自社品
MLN1117 <->	PI3K α アイソフォーム阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	自社品

*3 米国において実施中の調査結果により、再提出を検討

開発コード／製品名 ＜一般名＞	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
MLN0264 ＜-＞	抗GCC抗体薬物複合体 (注射剤)	進行性消化器癌	— P-I	自社品
MLN2480 ＜-＞	pan-Rafキナーゼ阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	導入品 (Sunesis社)
MT203 ＜namilumab＞	GM-CSFモノクローナル抗体 (注射剤)	関節リウマチ	欧州 P-I	導入品 (Amgen社)*4
Lu AA24530 ＜-＞	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病、全般性不安障害	米国 P-I 日本 P-I	導入品 (Lundbeck社)
AMG 403 ＜fulranumab＞	ヒト型抗ヒト神経成長因子(NGF) モノクローナル抗体(注射剤)	疼痛	日本 P-I	導入品 (Amgen社)
ITI-214 ＜-＞	PDE1阻害薬 (経口剤)	統合失調症に伴う認知機能障害	— P-I	導入品 (Intra-Cellular社)

*4 2012年3月7日、Micromet社はAmgen社に買収され、完全子会社となった

■ 剤型・効能追加

開発コード／製品名 ＜一般名＞ 製品名(国・地域)	薬効	適応症/剤型	開発段階	自社品/導入品
AG-1749 ＜lansoprazole＞ タケプロン®(日本) PREVACID®(米国) OGAST®ほか(欧州)	プロトンポンプ阻害薬	低用量のアスピリンとの合剤	日本 申請(13/3)	自社品
TAK-536 ＜azilsartan＞ アジルバ®(日本)	アンジオテンシンII受容体 拮抗薬	高血圧症(アムロジピンベシル酸塩との合剤)	日本 申請(13/4)	自社品
Rienso® ＜ferumoxytol＞	静注用鉄欠乏性貧血治療薬	経口鉄剤を服用できないもしくは 経口鉄剤による治療が有効でない 患者におけるあらゆる原因の鉄欠乏性貧血	欧州 申請(13/6)	導入品 (AMAG社)
TAP-144-SR ＜leuprorelin acetate＞ リュープリン®(日本) LUPRON DEPO®(米国) ENANTONE®ほか(欧州)	LH-RHアゴニスト	前立腺癌、閉経前乳癌 (6ヶ月製剤)	日本 P-III	自社品
TAK-375SL ＜ramelteon＞ ロゼレム®(米国、日本)	MT ₁ /MT ₂ 受容体作動薬	双極性障害(舌下剤)	米国 P-III	自社品
VELCADE® ＜bortezomib＞	プロテアソーム阻害薬	マンデル細胞リンパ腫(フロントライン適応) 再発性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	米国 P-III 米国 P-II	自社品
AD-4833/TOMM40	インスリン抵抗性改善薬/ バイオマーカー	アルツハイマー病に起因する 軽度認知機能障害の発症遅延	米国 P-III 欧州 P-III	導入品 (Zinfandel社)
AMITIZA® ＜lubiprostone＞	クロライドチャンネル開口薬	液剤 小児機能性便秘症	米国 P-III 米国 P-III	導入品 (Sucampo社)

■ 最近のステージアップ品目 ※2012年度決算開示(2013年5月9日)以降の変更点

開発コード/製品名 <一般名>	効能	国/地域	ステージ
TAK-390MR <dexlansoprazole>	逆流性食道炎の治療およびその維持療法、 非びらん性胃食道逆流症	欧州	承認(13/9)
SYR-322 <alogliptin>	糖尿病	欧州	承認(13/9)
SYR-322 <alogliptin>	糖尿病(メホルミンとの合剤)	欧州	承認(13/9)
SYR-322 <alogliptin>	糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	欧州	承認(13/9)
ATL-962 <cetilistat>	2型糖尿病および脂質異常症を合併した肥満症	日本	承認(13/9)
Lu AA21004 <vortioxetine>	大うつ病	米国	承認(13/9)
MLN0002 <vedolizumab>	潰瘍性大腸炎	米国	申請(13/6)
MLN0002 <vedolizumab>	クローン病	米国	申請(13/6)
Rienso® <ferumoxytol>	経口鉄剤を服用できないもしくは経口鉄剤による治療が 有効でない患者におけるあらゆる原因の鉄欠乏性貧血	欧州	申請(13/6)
TAK-816	Hib 感染症予防	日本	申請(13/9)
AD-4833/TOMM40	アルツハイマー病に起因する軽度認知機能障害の 発症遅延	米国/欧州	P-III
AMITIZA® <lubiprostone>	液剤	米国	P-III
SGN-35 <brentuximab vedotin>	成熟型 T 細胞性リンパ腫(フロントライン適応)	日本	P-III
TAK-137 <->	精神疾患、神経疾患	-	P-I
SGN-35 <brentuximab vedotin>	再発・難治性のホジキンリンパ腫	日本	承認(14/1)
SGN-35 <brentuximab vedotin>	再発・難治性の未分化大細胞リンパ腫	日本	承認(14/1)
Contrave® <naltrexone SR /bupropion SR>	肥満症	米国	申請(13/12)
ホメピゾール	エチレングリコール中毒およびメタノール中毒	日本	申請(13/12)
MLN0002 <vedolizumab>	潰瘍性大腸炎	日本	P-III
MLN0002 <vedolizumab>	クローン病	日本	P-III
MLN9708 <ixazomib citrate>	再発・難治性多発性骨髄腫	日本	P-III
AMITIZA® <lubiprostone>	小児機能的便秘症	米国	P-III
TAK-659 <->	固形癌、血液癌	-	P-I

※太線以下は、2013年度第2四半期決算開示(2013年10月31日)以降の変更点

■ 開発中止品目 ※2012年度決算開示(2013年5月9日)以降の変更点

開発コード/製品名 <一般名>	効能 (開発ステージ)	中止および終了理由
AMG 479 <ganitumab>	転移性膵癌(日本 P-III)	独立データモニタリングによる中間解析の結果、本試験において、主要評価項目を満たす可能性が低いとの結論が出されたため
TAK-491 <azilsartan medoxomil>	高血圧症(クロルタリドンとの合剤) (欧州 P-III)	欧州における市場環境を踏まえた再評価の結果、開発中止を決定
TAK-428 <->	糖尿病神経障害 (米国/欧州 P-II)	パイプラインポートフォリオの優先順位見直しの結果、開発中止を決定
TAK-390MR <dexlansoprazole>	逆流性食道炎の治療およびその維持療法、非びらん性胃食道逆流症 (日本 P-II)	日本における TAK-438 の開発が進捗したことにより、TAK-390MR の開発中止を決定
TAK-329 <->	糖尿病(P-I)	臨床試験成績がステージアップの基準を達成しなかったため、開発中止を決定
TAK-875 <fasiglifam>	糖尿病(P-III)	肝臓における安全性の懸念から、開発中止を決定

※太線以下は、2013年度第2四半期決算開示(2013年10月31日)以降の変更点

■ 共同事業化契約変更品目 ※2012年度決算開示(2013年5月9日)以降の変更点

開発コード/製品名 <一般名>	効能 (開発ステージ)	解消理由
Sovrima® <idebenone>	フリードライヒ失調症、デュシェンヌ型筋ジストロフィー(欧州 P-III)	開発における優先順位見直しの結果、Santhera 社に販売権を返還
<veltuzumab>	全身性エリテマトーデス (米国/欧州 P-II)	Immunomedics 社との veltuzumab に関する契約は終了した。現在、両社間で仲裁手続きが進行中

■ 日米欧以外の地域での申請・承認

地域	国	開発コード／製品名(開発段階)
米州 (米国を除く)	アルゼンチン	TAK-491 ^{*5} (申請 12/10)、SGN-35(申請 13/6)、SYR-322(申請 13/8)、 SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/9)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/9)
	ブラジル	SYR-322(承認 13/12)、TAK-491(申請 11/11)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 12/6)、 TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 12/6)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 12/12)
	コロンビア	DAXAS ^{*6} (承認 13/7)、TAK-491(申請 12/8)、SYR-322(申請 12/9)、 TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 12/10)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 12/10)、 SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 12/11)、TAK-390MR(申請 12/12(30mg)、13/3(60mg))、SGN-35(申請 13/2)
	エクアドル	DAXAS(承認 13/11)、SYR-322(申請 13/11)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/11)
	ペルー	SYR-322(申請 13/12)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/12)
	ベネズエラ	mifamurtide ^{*7} (承認 13/4)、DAXAS(承認 13/7)、TAK-390MR(申請 13/9)、SGN-35(申請 13/11)
欧州 (欧州連合(EU) 加盟国を除く)	アルバニア	DAXAS(承認 13/4)
	アイスランド	SYR-322(承認 13/10)、SYR-322/メホルミンとの合剤(承認 13/10)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(承認 13/10)
	モンテネグロ	DAXAS(承認 13/10)
	ノルウェー	SYR-322(承認 13/10)、SYR-322/メホルミンとの合剤(承認 13/10)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(承認 13/10)
	セルビア	SGN-35(申請 13/12)
	スイス	lurasidone hydrochloride(承認 13/8)、SYR-322(承認 13/11)、SYR-322/メホルミンとの合剤(承認 13/11)、 TAK-390MR(申請 12/9)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/1)、MLN0002(申請 13/5)
ロシア/CIS	ベラルーシ	DAXAS(申請 13/4)
	カザフスタン	TAK-491(申請 13/1)、SGN-35(申請 13/9)
	ロシア	TAK-491(申請 13/4)、SYR-322(申請 13/12)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/12)
	ウクライナ	mifamurtide(承認 13/7)、SGN-35(承認 13/10)、TAK-491(申請 12/12)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/12)
アジア (日本を除く)	中国	SYR-322(承認 13/7)、DAXAS(申請 11/12)、SGN-35(申請 13/5)
	香港	SGN-35(申請 13/2)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/3)、SYR-322(申請 13/12)、 SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/12)
	インドネシア	SYR-322(申請 11/1)、TAK-491(申請 12/2)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 12/7)、 TCV-116 ^{*8} /アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/10)
	マカオ	SYR-322(承認 13/10)、SYR-322/メホルミンとの合剤(承認 13/11)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(承認 13/11)
	マレーシア	TAK-390MR(申請 12/9)、TAK-491(申請 13/1)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/4)、 SYR-322(申請 13/12)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/12)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/12)
	フィリピン	TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/9)
	シンガポール	SGN-35(承認 14/1)、TAK-390MR(申請 12/10)、TAK-491(申請 12/12)、 TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/3)
	韓国	SYR-322(承認 13/5)、SGN-35(承認 13/5)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/11)
	台湾	TAK-491(承認 13/6)、SYR-322(申請 11/3)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 12/5)、 TCV-116/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/11)、SGN-35(申請 13/3)、 SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/11)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/11)
	タイ	TAK-390MR(承認 13/6)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 12/6)、 TCV-116/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/8)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/3)、 SGN-35(申請 13/5)
	ベトナム	DAXAS(承認 13/4)
その他	オーストラリア	SYR-322(承認 13/9)、SYR-322/メホルミンとの合剤(承認 13/10)、SGN-35(承認 13/12)、MLN0002(申請 13/6)
	アルジェリア	DAXAS(申請 13/7)
	ボツワナ	DAXAS(承認 13/9)
	エジプト	DAXAS(申請 12/1)、TAK-491(申請 13/4)、TAK-491/クロルタリドンの合剤(申請 13/6)、 SYR-322(申請 13/7)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 13/8)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/9)
	インド	DAXAS(申請 13/3)
	イスラエル	SGN-35(申請 13/8)
	ヨルダン	DAXAS(申請 13/3)
	ケニア	DAXAS(承認 13/10)
	モーリシャス	DAXAS(承認 13/5)
	サウジアラビア	DAXAS(承認 13/8)
	南アフリカ	SGN-35(申請 13/7)、SYR-322(申請 13/12)、SYR-322/メホルミンとの合剤(申請 13/12)
	タンザニア	DAXAS(申請 11/9)
	ウガンダ	DAXAS(申請 11/4)
	アラブ首長国連邦	TAK-491(申請 13/5)、TAK-390MR(申請 13/6)
ザンビア	DAXAS(申請 12/2)	

*5 TAK-491 <azilsartan medoxomil> アンジオテンシン II 受容体拮抗薬(経口剤) 高血圧症治療剤

*6 DAXAS[®] <roflumilast> PDE4 阻害薬(経口剤) 慢性閉塞性肺疾患治療剤

*7 <mifamurtide> 免疫賦活剤(注射剤) 非転移性骨肉腫治療剤

*8 TCV-116 <candesartan cilexetil> アンジオテンシン II 受容体拮抗薬(経口剤) 高血圧症治療剤